

教研の中学受験は1対1の個人指導が基本です

(1) 小学生には個人指導が最適です

大人数で一斉授業を行っている塾は多くありますが、すべての生徒が一斉授業に向いているわけではありません。カリキュラムに合う一部の生徒を除き、他の大多数の小学生は授業のペースや宿題の量に苦労しているのが現状です。小学生の成長には個人差があります。能力があっても心の成長が進んでいない場合、それが成績に反映されるとは限りません。

「目標が決まったら多少我慢しても努力し続ける」

この心が育っていなければ、一斉授業ではなかなか効果は期待できません。親や塾の強い意向で無理やり勉強をさせられた小学生は勉強自体が嫌いになってしまいます。私たちはそんな小学生をたくさん見てきました。

「本来持つ能力を潰すことなく中学受験をクリアするためには個人指導が最適である」と私たちは考えます。

(2) 小学生の成長を見極められる指導者は少ない

中学受験をした小学生の中には、「勉強が嫌いになった」「解き方が雑で成績が伸びない」という生徒が多くいます。

これは明らかに受験勉強の導き方を間違えた例です。塾の責任と言ってよいでしょう。小学生は、中学生や高校生に比べると大人の意見を聞く姿勢を持っています。大人はそれに甘えて小学生の成長を見極めず「すべきこと」ばかりを押し付けます。結果はすべて心に傷として残り、前述のような生徒になってしまいます。当会はこのような誤った指導をしないように小学生の成長を見極めながら指導します。そのため責任をもって指導できる数の生徒しかお預かりしておりません。現在、中学受験を真剣に考える御父母からの問い合わせが増えているため、授業時間割の調整に時間がかかっている状態です。場合によっては、すべての授業をお受けできない場合もあります。個人指導で責任をもって指導する以上、多くの生徒を預かることができないことをご理解ください。

(3) 『自分専属の先生が味方についている』とお考えください。

中学受験で大切なことは、自分にあったペース・宿題量の勉強をすることです。現在の偏差値にこだわらないでください。成績がよくないからといって勉強量を増やしても成績が上がるわけではありません。むしろ下がることすらあります。

私たちプロは途中経過の偏差値にこだわらず、過去問に照準を合わせています。偏差値は目安に過ぎず、結果に一喜一憂するものではありません。それよりも過去問を分析・対策し、何が必要かを逆算し、偏差値より10以上高い学校に合格させています。

人はこれを「奇跡」とか「サプライズ」などと言いますが、綿密なプランを立ててその生徒に合った指導を実践すれば合格最低点を超えることもあります。教研の指導者が常に相談にのり、偏差値以上の学校への合格を目指します。

Column (コラム) **することが多すぎる大手塾！**

中学受験において「家庭学習」はとても重要です。

大手塾では、「家庭学習をすること」が前提のカリキュラムが組まれています。言い換えると「家で勉強しない生徒はついていけない」ということです。そして、その量は莫大で短時間で解ける量ではありません。

塾でそのフォローをしてくれれば良いのですが、宿題の量が多すぎてフォローする時間などありません。いつの間にかフォローするのは親の仕事になります。さらに容赦なく突きつけられるテストの結果で自信を失い、塾に相談しても「成績が上がらないのは家庭学習が身につけていないことが原因」という理屈で納得せざるを得ない状態になり、矛先は更に子供に向きます。

このあたりから歯車は狂い始めます。

こんな時こそ個々の生徒に合わせた学習修正が必要です。

与えられた課題の全てが解ける必要はありません。「今」結果が出なくても、必要なことを優先して学習すれば必ず成績は向上します。時期がくれば自然に解答できるようになることは多くあります。

私たちに言わせれば、これは常識でこんな常識を知らない大手塾の指導は「素人指導」と言えます。莫大な宿題を出し、多くの問題を解かせ、ついてきた人だけ結果を出すなど「プロの仕事」ではありません。

プロは問題を選んで解かせ、フォローできないような量の宿題は出しません。素人指導に多くの小学生が潰されているのです。

そして、誤解を恐れずに言うなら「素人指導」の言うままに子供を責める親にも責任の一端はあります。

(1) 志望校を絞り、過去問を分析するところから始まる

一斉授業では、「特定の学校」だけに特化した授業をすることはできません。多くの生徒がいる以上仕方のないことです。結果的にどの学校でも出題されやすい「頻出問題」を中心とした勉強になります。第一志望に最短で到達したいなら、学校を絞った過去問の分析をすべきです。

生徒の教科ごとのバランスを踏まえ、必要な知識・思考法を明確にしてそれを補充していく・・・
これは合格までの道のりを逆算した指導で、1対1の個人指導だからできることです。

(2) 過去問はいつから始めればよいのか・・・？

全カリキュラムが終了した8月～9月頃が理想です。それまでは特殊算等基本事項の学習をします。

「9月に入試問題はまだ早い」という人もいますが、その生徒にあったレベルの入試問題からはじめることは可能です。受験しない学校の過去問を解くこともあります。驚かず信じてください。「入試問題は簡単に得点できない」「問題集や模擬テストの問題とはまったく違う」等々を実感させながら、徐々に対応力をつけていきます。

過去問は「ただ解けばよい」というものではありません。時期・レベル・順序等を考えながら進めていきます。その判断ができるのがプロの指導です。

Column (コラム) 大手塾でも過去問対策はしています

「過去問対策をすれば合格率が上がる」ということは誰もが知っています。大手塾でも過去問対策は実施しています。問題を解かせ採点・寸評する指導です。

しかし、これでは対策にはなっていません。過去問対策とはもっと深く、目的のあることです。

まず指導者は生徒の学力・知識を考慮してどの問題まで解けるかを想定します。そして合格点に達するためには何をすればよいかを的確に判断・指導します。

この最後の「判断・指導」の中身こそが過去問対策なのです。

いつでも方向転換できる柔軟な気持ちを持ってください

一昔前は、受験するなら大手進学塾（〇〇中学 合格△名！という数を売りにする塾）に通わなければ合格できないと考えている方が多かったようです。しかし、最近は大手進学塾の内情を知る方が増え、また中学受験にそこまで多くの犠牲を払いたくないという考え方から受験に対する意識に変化が表れています。

教研では、「受験勉強を始めたらず受験するしかない」という考え方に固執しないようにお話をしております。受験は中学受験で終わりではありません。高校受験、大学受験へと続くのです。「高校受験ではもっと簡単に合格できる」という学校は少なくありません。焦らずに結論を出すようにしてください。

（1）小学校の勉強を仕上げる、そして受験体制へ！

小5までに小学校の範囲をすべて終了させます（学校の教科書より少し高いレベルです）。余裕があれば、少しずつ受験用の特殊算を導入することもあります。そして、受験をするかどうかは小6で決定してください。もし受験をしなくても、小学校の範囲を早く終了させることは決して無駄にはなりません。

受験に対する適正を見ながら受験体制をとっていくという、教研の新しい提案です。

最近は「受験予備軍」の方が増えています。「本格的に受験勉強をしようかどうか迷っている」または、「本格的な受験勉強をしなくても合格できる学校を目指している」という人たちです。

一見すると中途半端に聞こえるかもしれませんがこのような受験希望者は近年急増しており、私たちはこのような要望に応じています。

あくまでも公立小学校の学習内容をきちんと理解させてから徐々にステップアップする方法です。

「まだ小学生だから・・・、勉強、勉強の毎日にはさせたくない。だけど、受験もちょっと気になる・・・」
こんな御父母の気持ちを、私たちはとてもよく理解しています。

詳細はお問合せください。

※生徒自身の力にもよりますが、首都圏模試の偏差値 62~63（江戸川取手レベル）までと位置づけています。早い時期からの準備は必要ですが（小5の初めくらい）、あくまでも公立小学校の学習内容をきちんと理解させてから徐々にステップアップする方法なので、負担は大きくはありません。

(2) 小学校の勉強を仕上げる、そして飛び級して公立中へ！

(1)と同様に小学校の範囲を早く仕上げてしまいます。そして、小6になったら受験体制をとるのではなく中学1年生と一緒に勉強を開始します。いわゆる「飛び級」です。そして1年早く学習を進めることで、受験学年には余裕をもって取り組むことができます。当会ではこうした飛び級希望者は毎年おり、その成果を上げています。小6の時に中学1年生の基本勉強を終了させ、中学2年から飛び級するカリキュラムもあります。

教研では、受験勉強として始めたことが決して無駄にならない方法を取り入れています。進路の方向転換に柔軟に対応しております。

(3) 東葛飾中のみ受験する！

最近、特に増えています。公立であることに加えて、入試問題が特殊で「思考力」「読解力」「記述力」を求める問題が出題されるため、一般の私立受験に比べて詰め込み重視ではないので、その後の勉強でも役に立つであろう・・・という考えが多いようです。

しかし、これは決して簡単なことではありません。むしろ私立中受験指導の方が簡単といってよいでしょう。まず、指導者が生徒のもっている読解力や記述力を見極めるところから始まります。当然基礎計算力も必要です。表や文の読み取り方、問題文の分析の仕方一つひとつ丁寧に説明し、理解させています。

「思考力」「読解力」「記述力」は能動的なものなので、一方通行の一斉授業で身につけられるものではありません。生徒本人の言葉で表現させ、それについて問答することで思考力等はついてくるのです。

1対1の個人指導が前提ですが、それだけではなく「先生の指導力」と「先生の事前準備」が重要です。

Column (コラム) 週に50分×2回の授業で東葛飾中1次合格

ご家庭のご意向は「東葛飾中だけ受験して、だめなら公立中に進学」というものでした。

6年生に進級する前までに、主要4教科の小学教科書内容がきちんと身についた時点で、最終的に受験をすることを決めました。

週2回の授業希望だったため、理系担当と文系担当が合格に必要な内容を綿密に計画し、5年生の3月から指導を開始。最も重要な聞き取りや記述力を徹底的に鍛えました。

各季節講習でも決して多いとは言えない時間数で、確実に力を養成。

結果は残念ながら1次合格までに終わりましたが、公立中学進学後に学年一桁順位を狙える学力および、高校入試では東葛飾高校合格に十二分に対応できる思考力を身に着けることが出来ました。

入試で合格を勝ち取れなくても、無理な暗記や生徒が意味を理解できない解法トレーニングをせず、正しい順序・内容の指導をして、その後の成長に大きくつなげています。

Q1 偏差値以上の学校に合格していると聞きましたが・・・

A1

当会の中学受験の指導は、偏差値が第一志望に遠く及ばない生徒を合格させるプロの指導です。お気軽にご相談ください。

入会時の首都圏模試当時偏差値(記載なしは当会のみ指導) ⇒ (進学先)

- 2008年卒・・・ ●ss50⇒市川 (ss66)
- 2009年卒・・・ ●ss42⇒茗溪 (ss54) ●ss48⇒大妻中野 (ss54)
- 2010年卒・・・ ●ss57⇒市川 (ss66) ●ss46⇒茗溪 (ss54)
- 2011年卒・・・ ●ss46⇒国府台女子 (ss60) ●ss48⇒麗澤 (ss57)
- 2012年卒・・・ ●ss48⇒江戸川取手 (ss62) ●ss36⇒日本大学第一 (ss50)
- 2013年卒・・・ ●ss37⇒麗澤 (ss57)
- 2014年卒・・・ ●早稲田 (ss70) ●市川 (ss66) ●江戸川取手 (ss62)
- 2015年卒・・・ ●芝浦柏 (ss60)
- 2016年卒・・・ ●ss50⇒茗溪 (ss54) ●ss64⇒東葛 (ss70)
- 2017年卒・・・ ●ss61⇒東邦大東邦 (ss70)
- 2018年卒・・・ ●恵泉女子 (ss62) ●麗澤 (ss58)
- 2019年卒・・・ ●ss52⇒江戸川取手 (ss64) ●順天 (ss58)
- 2020年卒・・・ ●ss49⇒茗溪 (ss54) ●ss55⇒江戸川取手 (ss64) ●ss35⇒跡見学園 (ss48)
- 2021年卒・・・ ●ss35⇒東洋大牛久 (ss43)

▽その他の合格実績は別冊をご覧ください

Q2 受験校選択・進路指導について教えてください

A2

小学生はメンタルケアが重要。そのためには受験校選択が最重要です。
また、不合格からが本当の進路指導です。

入学したい学校しか受験しない・・・。

気持ちはわかりますが、これが中学入試失敗の大きな原因の一つです。

受験期間は1月上旬から2月5日頃まで約一ヶ月近くあり、その期間であっても子供は成長していきます。過去に、市川中学1回目を不合格になった生徒が、その後、私立の滑り止め校合格を経て、最終的には渋谷教育学園幕張中学2次(2回目)試験に合格した例など複数の実例が物語るように、「合格」という段階を経て自信をつけさせ、「入試力」を高めていくことが重要です。

あまり乗り気がしない学校であっても、最終的に希望する学校の合格を勝ち取るための準備として受験をすることも必要なのです。当会の「受験校アドバイス」には是非耳を傾けてください。

また、試験である以上、予定通りにいかないこともあります。「不合格」という結果には、親も子も落ち込みますが、大事なことは、気持ちを切り替え、準備をしてきたその後の受験に「正しく」備えることです。

たとえば、不合格が続くと、手当たり次第に受験校を増やしていく御父母がいらっしゃいます。過去問対策もせず、気持ちの準備もできていない状態で受験校を増やしても、生徒の負担を増やすだけです。

また、そのような焦った対応が生徒を余計に不安にさせ、追加した学校も不合格になってしまったら・・・。火に油を注いだ状態になってしまいます。場合にもよりますが、私たちは、不合格が続いた時こそその分析をし、第一志望をしっかり見据えた指導を行います。

Column (コラム) 親のバックアップも指導の一環です

中学受験は、一般にお父さま、お母さまが「主導権」を握っています。そのため、お父さま、お母さまにかかる負担は少なくありません。ご自身の選択が正しいか、また今何をすべきか・・・等。

私たちは、不安と戦うお父さま、お母さまを全面的にバックアップいたします。

Q3 教研の過去問対策は他塾とどこが違いますか？

A3

9月以降、学校別の過去問対策を実施します。本格的な過去問分析はここから始まります。

- ・志望校の過去10年分以上の出題問題をすべて分析する
- ・過去問と生徒の学力を比べ、補うべき内容を分析し、得点すべき問題を明確にする
- ・テスト中の集中力の具合を見極める
- ・なぜケアレスミスをするのかをしっかりと分析して対策とケアをしていく

試験で最後の教科まで集中力を持続させるのは容易なことではありません。受験生の多くは4教科目の試験では、かなり集中力が落ちています。また12歳の生徒にとって、「受験」というプレッシャーは大きな負担です。自分では落ち着いているつもりでも実は緊張しており、それがケアレスミスにつながる場合があります。寝不足も大きく影響します。中学生や高校生では考えられない状況に陥るのが、中学受験の特徴です。

Q4 過去問でどうしても合格ラインに届かず、自信をなくしています

A4

「学力」と「得点力」は別です。解けないことを嘆く必要はありません。

学校の出題形式を徹底的に分析し、配点まで考慮した解法指導を行います。

学校によってはある年を境に入試問題が難化することがあります。

このことに焦る必要はありません。合格最低点が下がればレベルは変わっていないことを意味します。難しい問題と易しい問題の差ははっきりしただけです。問題をうまく取捨選択できれば十分に合格ラインに届くことはできます。

「学力をつけること」ばかりに気をとられずに、「得点力をつけること」にも目を向けることが重要です。

『難しい問題を丁寧に解説する指導』が、かえって「混乱」と「自信喪失」をまねき、合格ラインに届かなくなってしまうこともあります。その生徒が確実に正答できる問題を重視し、その生徒の現状に合った確かな指導をしてはじめて、過去問分析の意味があるのです。

※学校によってはある年だけ何らかの噂が広がって倍率が急騰することがあります（一時的なものが多いですが…）。過去、広尾学園や大宮開成、東洋大京北にそういったことがありました。

教研独自のサービス

欠席授業の振替

欠席した navi 授業 は他の日に振替えて受講できます。(要予約・期限有)

欠席時授業録画サービス〔英語〕

欠席した英語の授業は、後日映像で視聴することができます。(要予約)

WEB サービス

お子様の塾内での様子や学習状況はとても気になるものです。当会の授業の様子は、授業毎に毎日ホームページにアップされ、24時間いつでもご覧いただけます。

また、当会からの様々な連絡事項、ご父母からのご要望等を送信して頂くこともできます。

メール送信サービス

事務からのご案内は基本的にメールでのご案内になりますのでアドレスの登録をお願いします。登録がない場合はご案内ができませんのでご注意ください。

保険加入

当会では、入会者全員が総合保険に加入しております。この総合保険とは生徒が教室内もしくは当会との往復途中においてけがをした場合、あるいは他の生徒等に誤ってけがをさせた場合に補償されるものです。このような事故が起きた場合には当会まで御連絡くださいますようお願い申し上げます。

尚、保険費用は毎月の授業料に含まれています。

